

一山議員 それでは、通告してありました2点についてお伺いいたします。まず初めに牟岐バイパス道路についてお伺いいたします。四国横断自動車道の早期完成や地域高規格道路、阿南安芸道の桑野、福井両道路の整備、特に県南は道路整備を進めないと、益々衰退すると言われております。地域高規格道路を含む四国の高速道路網は、鳴門から県南を經由し、高知県東部を結ぶルートが唯一と言える空白地帯ですが、これまでに開通したのは、阿南安芸道の日和佐道路の一部、6.2kmだけで、順調に整備が進んでいるとは言い難いところがあります。高速道や環状線だけでなく、県内の道路整備は、他県より著しく遅れております。国の規格に適合するように改良された割合を示す高速道路を除く道路改良率は、2004年4月1日現在で、62.1%、全国ワースト3位、改良された道路のうち混雑度が低く円滑に走れる割合の道路整備率も34.9%でワースト2位、2008年は、各63.8%と39%で殆ど改善されておられません。整備が進まない理由として、徳島特有の地形が挙げられており大きな河川や険しい山地が多く、橋やトンネル建設に多額の費用と時間を要することや用地取得も他県より難しいとされ、長期化に拍車を掛けているようです。それ以上に深刻なのが財源の問題で国同様、県の財政も厳しさを増しており、県道路整備課は、昔のように金も時間も掛けるのは無理で、工事区間や時間を短縮して投資効果を高めないといけないと話しており、経済や観光防災対策なども道路というインフラ整備の上に成り立つということも言われております。2011年度政府予算の概要要求で、国土交通省は阿南安芸自動車道の阿南から桑野、いわゆる桑野道路、6.5kmの新規着手や日和佐道路、阿南市福井町から美波町北河内の9.3kmの全線開通を盛り込んでおり、県南部の高速道路、空白地域の解消に繋がるものであり、国交省が同時に要求している高知東部自動車道の芸西西から安芸西8.5kmの新規着工と合わせて四国を一周する8の時ネットワークの完成に向け大きな弾みとなるのではないのでしょうか。整備が再開された阿南から桑野間はご存知のように阿南市から高知県安芸市まで繋がる阿南安芸道110kmの一部で、四国横断自動車道の新直轄区間の徳島東から阿南17.7kmと南に続く福井9.6kmと日和佐両道路を結ぶ道路であり、それが牟岐バイパス道路と繋がり、さらに南進して安芸と繋がって、ネットワークが完成してこそ効果をフルに発揮することができる。南海地震の際の緊急輸送路の他、県南の農林水産業活性化や観光振興などで重要な役割が果たせるようになるのではないのでしょうか。そのためにも牟岐バイパス道路の早期完成も望まれていることと思います。そこでお伺いいたします。牟岐バイパス道路工事の進捗状況はどうか。今までの測量、ボーリング等の調査状況、結果はどうだったのか。これまで

関係者には何度も説明してこられたと思いますが、ルートにかかる地権者やその周辺の地域住民の思い、意見等はどうなのか十分把握されているのでしょうか。また、買取について現状はどうでしょうか。それから、各地においては、廃止や見直し等が行われている所もありますが、国、県の今後における工事への計画、見通しはどうか、また、本町の見解、考えはどうかお伺いします。2件目に子どもの体力テストと体力強化についてお伺いいたします。文部科学省が小学5年と中学2年を対象に実施した全国体力テストで徳島県内の子ども達の体力が全国平均を大きく下回っていることが分かりました。実技、体力合計点は、小学5年男子が全国最下位の47位だったのをはじめ、小5女子が41位、中2男子が37位、中2女子が38位と、いずれも全国の下位グループでございました。平均を上回ったのは、小学5年女子のソフトボール投げと、中学2年男女の握力だけで、体力不足が浮き彫りになっております。体力は健康な生活を維持していく基本となります。子どもの頃に体力をつけておくことが大事なのも言う間でもありません。県内の子どもの体力低下は、1964年度から実施している抽出調査でも明らかになっており、このため県の教育委員会では、2007年度から小学1、2年を対象にした体力アップ100日作戦を展開しているようです。ご存知のように児童が体力向上に繋がる目標を立て、取り組みが100日に達すれば賞を贈る仕組みで、低学年から運動の習慣を身に付けてもらうのが狙いです。100日作戦では休み時間などを利用して学年や学級単位で創作ダンス、阿波踊り体操、ストレッチなどに取り組んでいっているとっております。また、体力テストと同時に行われた生活、運動習慣に関するアンケート結果からは、朝食を食べない、睡眠時間が短いといった不規則な生活実態や肥満傾向の高さも浮かび上がっております。学校の統廃合などでバスが普及し、親の送り迎えも多く、中山間地域を中心に歩く時間が減っているとも言われております。運動部に所属しているのは、小学生男子で71%、女子46.5%、中学生男子86.6%、女子62.3%、小学生の一日の運動時間を見ると、30分未満が男子12.8%、女子26.7%、2時間以上は、男子49.6%、女子25.7%で運動している児童と、していない児童との二極化が顕著になっております。それから体育の授業が楽しいと答えたのは、小中学生とも概ね全国平均を上回っているようですが、体育の授業で体の動かし方やうまくなるコツが分かったと答えた割合は、全国平均から下回っており、授業内容にさらなる工夫が必要ではないだろうかと言われておりますが、本町でも素晴らしいスポーツ選手が沢山出ておりますが、昔と言うか、以前は子どもも沢山おり自分達で遊びを考えたり野山を走り回ったことが自然に運動能力や体力強化になったのではな

いかと思います。いまは過疎や少子高齢化が進み、親同士のネットワークも希薄化するなど部活動以外に地域で安心して友達と自由に遊べる場が少なくなっていることや塾通いやテレビゲームの普及で、屋内で過ごすことが多くなったこと、夜更かしで生活が乱れ、朝食が食べられない子どももいます。特に車に頼った生活が運動不足に拍車を掛けているなど、子どもの体力低下や肥満傾向の背景には、社会環境の変化があります。生活の乱れや肥満には家庭が目を見せ遊び場は地域や学校も十分協議、検討もして提供するなど、しっかりとした取り組みが必要になってくるのではないのでしょうか。そこでお伺いいたします。体力テストは行っているのでしょうか。どのような形、方法で行っているのか。結果はどうか、把握はされておりますか。結果を受けての感想と今後の取り組みはどのように考えておられるのか。保護者や学校との連携はどのように取られているのか、また、取られていかれるのか。それから、体育の授業内容については、どのような協議、取り組みをされていられるのか。子ども達が遊びの中で自然に運動能力や体力を身に付けられる場所や町づくりについての考えはどうでしょうかお伺いいたします。

**議長** 大神町長。

**町長** 一山議員の2点のご質問にお答えいたします。まず牟岐バイパスの現況でございます。安全かつ円滑な交通を確保するという、いつも私も行ってありますが、牟岐からかちどき橋まで渋滞がなくても1時間半というふうな、この半時間、古庄の橋までどうしても1時間掛かる訳なのです。日和佐道路が連結すれば、昨日新聞に予算化されておりましたけれども、夢の実現、1時間の所要時間というのは、これはほどなく実現するかと思いますけれども、この交通、牟岐バイパスは、東南海、南海地震に備えての緊急輸送道路としても、また、牟岐町以南の命の道を確保することを目的として、平成16年度に事業化され現在に至っております。現在の進捗状況でございますけれども、用地測量の調査の段階でありまして、昨年の夏4ブロックに分けて地権者との交渉など国交省が行ったと思っておりますが、設計協議中の地区がまだあるようでございます。ボーリング調査等の調査状況結果とか地域住民の願いと思いですか、水路を引いて欲しいとかいうふうな要望はあったようでございますので、それについては担当課長から説明をさせますが、実は先日の国交省の会議では徳島河川国道事務所の事業説明には、四国横断自動車道、阿南道路、日和佐道路、牟岐バイパス等の事業概要並びに進捗状況の説明があり

まして、牟岐バイパスの完成時期につきましては、まだクエッションマークでございますけれども、一応、予定通りに実施するという中央の方針だそうです。これは徳島の河川課長の説明でございます。政権交代による仕分けというふうな作業なんかもありまして、ちょっと頓挫していたようでございますけれども、牟岐バイパスにつきましては、予定通り、ちょっと時期がズレましたけれども行いますというふうな説明がありました。1日でも早い整備ができますように関係各位のご協力をいただければと思います。また、四国8の字道路、いわゆる一般国道55号、及び阿南安芸自動車道の整備促進、室戸ですか、芸西で来月また決起集会と言いますか、要望会議があるようでございますけれども、今まで以上に四国の道路の遅れようの訴えということは、県は勿論のこと国にも要請し実現を図るような牟岐バイパスにつきましては、そういうふうな現況でございます。2番目の子どもの体力テストは新聞なんかで報道されておりました、徳島県の子どもの体力が全国的に低いということは、最も承知しておりますが、鳴門市でしたか、1人ずつ万歩計を配って1日に何歩歩いたかというような報告をさせたりというふうな地方自治体によって、色々対応策を考えておるようですけれども、牟岐町におけますこの体力テスト、体育の授業のやり方と言いますか、食事の問題、色々生活環境、これはまた教育長、教育次長から答弁させますのでよろしく申し上げます。以上です。

**議長** 栗林産業建設課参事。

**栗林産業建設課参事** それでは、一山議員の牟岐バイパスの質問について、町長の補足としてお答えいたします。まず、国道55号牟岐バイパス完成までの流れでございますが、1、事業化、平成16年度に事業化されまして、2、地元説明、3、測量調査、4、設計協議、5、用地、杭打ち、6、境界立会、7、用地測量調査、8、用地補償協議、9、契約、10、工事、そして供用開始ということになる訳でございますが、現在、牟岐バイパス整備区間を5地区に分けて進めておりました、関、山田、大谷地区の3地区につきましては、用地測量調査を進めております。残りの2地区の杉王、清水地区は、現在設計協議中でありまして、全ての地区が同様の進捗とはなっておりません。設計協議完了次第、順次幅杭用地調査に入ると聞いております。先ほど町長も申しましたが、完成時期については確定しておりません。今後、国の予算配分に関連すると思われれます。2点目の測量ボーリング等の調査状況及び結果についてでございます。測量は一部完了していないところがありますが、ほぼ終了しております。ボーリング等の地質調査につ

きましては、概ね完了し、バイパスのルート、構造には特段影響することはなかったと報告を受けております。尚、水源地付近でもボーリング調査を行っておりますが、特に濁りの原因になるような影響は見受けられなかったということです。次に地権者や住民の思いや意見の現状についてでございますが、現在、地域住民の特に強い関心が排水問題であります。地区説明会等を重ね意見を聞きまして、現在、国交省におきまして課題について検討しているところであります。今後しっかりと設計に反映してもらうように調整をしているところであります。また、個人的な問題につきましては、その都度国交省の徳島河川国道事務所の担当者が直接個人にお会いいたしまして対応し、事業を進められるよう努力しておりますが、今後も同様な体制で行っていくようになっております。最後に牟岐バイパスの今後の事業、工事の計画見通しということでございますが、今現在、本年度のみ約1億円の予算付けがされておまして、まずは先ほど申し上げました設計協議を全地区で完了させるべく引き続き協議を進めると聞いております。次年度以降につきましては、今後、先ほど申しましたが予算配分が付く範囲内で順次先ほどの流れに沿って進んでいくと思われませんが、今、段階、個人との折衝段階でございますので、やはり時間が掛かる時期かと思っております。以上で終わります。

**議長** 教育長。

**丸岡教育長** 先ほどの一山議員さんのご質問の中にもありましたように、子ども達の体力を支えるもの、それは言う間でもなく食生活とか、或いは、望ましい生活習慣から、これは非常に大事なことでございます。その中で体力テストを実施した時に、日本全国で非常にランクが最下位若しくはもう一つ上辺りということで、徳島県の体力テストの結果が非常に悪いという、そういうご指摘でございました。私は子どもの体力テストと体力強化についての事柄について、お答えを申し上げようと思うのですが、牟岐町の子ども達はということで答弁をさせていただこうと思っております。徳島県の中でも牟岐町は、それでは最も悪いのかというと、実はそうではないのです。色々な記録、結果を小学校並びに中学校からもらっておりますので、それをずっと眺めておりますと、以外や以外、牟岐町の子ども達、特に牟岐中学校の子ども達にとりましては、非常に全国平均を遙かに上回っていると、そういうような結果が出ております。まず、1つ目でございますが、新体力テストというのは、子ども達の体力や運動能力を調べるものでございまして、自分の力を知り、体力や運動能力を延ばすために役立っていくのですよと

いう趣旨で全国的な規模で実施されているものであります。新体力テストは、小学校と中学校で毎年実施されておりまして、小学校では5、6年生の全児童、中学校では1年生から3年生までの全ての生徒が実施対象となっておりますのでございます。体力テストの体力運動能力テストの実施種目というのは、実は9つほどあります。9種目ありまして、全て体育の授業の中で体力テストが行われている訳です。その種目にはどんなものがあるかと言いましたら、握力ですね、それから上体起こし、これは私達も時々やると思うのですが、寝ています、足を誰かに押さえてもらっていて起き上がってくる。その上体起こし、3つ目は長座体前屈、難しい言葉でございますが、足を伸ばしたまま座っていて上体を曲げるということです。足を伸ばして、そして上体を曲げるという、ここでやったら良いのですが、場所がございませんので、ずっとこういって、こういうものを置いておいて、こう突く訳ですね。だから、この人はここまで伸びた、伸びるということでございます。それから反復横飛び、こういうように限られた時間内に何回横飛びができるか、それから、持久走です。20mのシャトルランテスト、20mの長さを何回も20m走って、また、向うからこっちにターンを繰り返すという、そういう測定でございます。それから、50m走、立ち幅跳び、砂場等でよく経験したことがあるかと思いますが、それから、ハンドボール投げでございます。これらの結果につきましては、どうだったのかという一山議員の質問でございますが、中学校全体で見た場合に54項目中全国平均を上回っているのは、全国平均同じでなく上回っているのは、30項目でございます。率にしまして56%全国平均を遙かに上回っているということでございます。従って、牟岐中学生は全体的に見て体力や運動能力は全国平均よりも優れ、やや高い位置にあるということが言えるのではないのでしょうか。中でも体力とか運動能力中極めて高い得点をした種目が握力でございます。平均よりもずっと上に握力というのが牟岐中学校の1年生、3年生全ての子ども達に、平均でございますがありました。私はその結果を見て、どうして牟岐町の子ども達がこんなにも握力が秀でているのか、高いのかということも考えてみたのですが、なかなかその理由が分かりませんが、私なりに考えたところ、牟岐町は、球技が盛んで牟岐町内の小学校の頃から手を使ったり握ったりすることのスポーツを幼少の頃からやってくる。そういう証ではないかと思ったりしています。球技だけではございません。柔道もよくこう握ったりしますね。それから剣道も同じではないかと思えます。スポーツに子ども達が特に慣れ親しんできているので、そういう物を掴む、物を握るというあたりが高かったのではないかと思います。また、持久走や50m走におきましても男女とも全国平均をかなり上回っており

ます。こうした傾向は小学校5、6年生の児童にもその結果が現れてきております。次に今後の取り組みでございますけれども、こういう体力テストをやって大切なことは、体力テストの結果を温存しておくだけでなく、全体的な結果を生徒達や保護者にも公表してあげること。今後どのように、その結果を活かしていくかということが大切ではないかと思っております。1つは学校や学年全体の特徴を体育の授業の中でそれをやっておりますので、君たちの結果はこうだったよということで公表する。そうしますと、学校全体や学年全体の体力や運動能力を知ることに関わり長所をさらに伸ばし、そして短所を克服していくための心構えを起こさせることに繋がっていくのではないかと思っております。また、こうした指導が体育の指導教師の指導力、そして、また、授業改善にも大いに役立っていくことになると思われます。それから、議員の質問の中にも保護者との連携についてどうかということでございましたが、実は体力テストの結果というのが、1学期の終わりにきておりますので、具体的に子ども達並びに保護者に伝わっておりませんが、中学校の校長さん、教頭さんに話しを聞きましたら、PTAの役員さんや保護者会があります。或いは、また、学年部会とか2学期にそういったことをしっかり取り挙げていくようにしているとのことでした。また、話すだけでなくそういう結果を活字にして学年だよりとか学級通信に掲載していくということでございます。最後に子どもが遊びの中で自然に運動能力や体力を身に付けられる町づくり、そういうことについてはどのように思うかというご質問でございましたけれども、これは教育長として大変難しいことだと受け止めておりますが、逆に一山議員さんにもできたら教えていただきたいと、そんな感じもする訳でございます。現在行われている中学校は、長期に亘ってこの体力作りのために全員部活動性を学校の中で強いております。全員部活動ということでございますので、部をそれぞれの顧問が運営をしていってくれる訳でございますが、試合にその部が勝つことも大事なことでございますが、それ以上に私が大事にしてきた、そして、大事に思うことがどんなことかと言うと、部の中でのチーム作りではないかと思えます。チーム内における子ども同士の人間関係作りなのです。そういうことです。チーム作りがうまくいくようになってまいりますと、子ども達にとって楽しい部活動になっていきます。ほんとに皆さん方も新聞等でよくご存知だろうとおもいますが、色々優勝した監督談話、或いは、子ども達の話をしてみると、やっぱり皆の支えがあったから、或いは、また、部活動の仲間たちと協力関係が本当にできるのだと、そういうような事柄が根底にございます。すると、厳しい練習にも耐えることができるようになってまいります。体力や運動能力が自然と高まるってくるように思うのですけ

ども、しかし、それは自然のように見えますけれども指導者の確固たる意図がそこになれば、子ども達の運動能力や体力はそれ以上伸びてこないと思われれます。体力作り、運動能力作りというのは、私たちにとってほんとに大事なことでございますので、常日頃から私達の体作りや健康作りを考えていく、そういうような子ども達を作っていかなければならないと思っております。お答えにならなかったかも分かりませんがそのように考えております。

小休宣告 午前10時52分

再開宣告 午前11時06分

**議長** 一山議員、再問。

**一山議員** 再問という訳ではないのですが、牟岐町にもやはりスポーツマン、また、アスリートという方が沢山ございます。やはり以前は、私達の若い時というか、以前は学力テストにしても運動のことにつきましても順位を付けて貼り出していたということがございました。一時期そういうことはいけないということで、皆一律にという感じでしてはいたしましたが、やはりそれぞれ、その子特有の得意とする分野がございます。それを活かすためにもやはり順位も必要ではなからうかと思っております。それを見て自分もこれからは頑張っていきたいという気力も出てくるかと思っておりますので、その点も色々考えていただいて子ども達が一生懸命に頑張ることができるようにしていただきたいと思っております。以上でございます。